体育授業におけるインクルーシブ教育の検討
－「左利き」生徒に着目して－

田鍋　麻耶（生涯スポーツ学科　学校スポーツコース）
指導教員　黒澤　寛己

キーワード：インクルーシブ教育，体育，左利き

１．緒言

現在，日本の学校教育において多様な生徒への対応が求められている事実，通級指導教室・特別支援学級・特別支援学校における児童生徒数は増加傾向にある.しかし，体育授業などにおいて以前から問題である「左利き」の児童生徒についてはあまり配慮されていない.

そこで，本研究ではインクルーシブ教育の視点から左利き生徒に着目し，体育授業での不満に感じる点・問題点・課題を明らかにし，より良い体育授業の在り方について検討することを目的とした.

２．方法

調査対象者：本学の運動部に所属する左利き生徒（20～22 歳の男子 4 名・女子 3 名）
調査方法：インタビュー調査
質問項目：1. 性別　2. 年齢　3. 現在所属している部活動名　4. 利き手・足はどちらか　5.学校生活において左利きであることで今まで苦労したこと　6.左利きで周りから批判されたこと　7. 体育授業・スポーツ時においての左利きのメリット・デメリット，デメリットに対してどのような指導があると思うか　8. 左利きで得だと思う点　9. 損だと思う点　10. 体育授業で一番苦労した運動・スポーツ　11. スポーツにおいて左利きが有利であるとされている点について　12. もし右利きだったら不便なことはあるか

３．結果

左利きのメリットとして，スポーツが有利であることが挙げられた．デメリットとしては，体育授業において左利き生徒への指導が不十分，左利き用用具が少ない，など多数の意見が挙げられた．デメリットに対して「左利き生徒への指導や見本を見せてほしい」「左利き用用具をもっと増やしてほしい」などの要望があり，どの生徒も1度は左利きであることで学校生活や体育授業において苦労したことがあると回答した.

４．考察

体育授業では指導方法や用具の点において左利き生徒への配慮ができていない現状があり，不便さや不満を感じていると考えられる．しかし，部活動やスポーツ時において左利きは有利であるとされていることから，体育授業においても左利きのメリットを活かしていくことができると考えられる.

４．結論

今後，用具の充実，指導の配慮など，左利き生徒が不便さを感じることのなく，右利き生徒と同じように，またはその特性を活かして活動できるような体育授業を受けることのできる環境づくりをする．また，このような視点をもとに．性同一性障害（LGBT）や発達障害の生徒に対しての配慮も行っていくことも今後必要であろう.

参考文献

笹森洋樹(2016)「日本におけるインクルーシブ教育システム構築の取組と課題」,NISE 特別支援教育国際シンポジウム資料